

1 漢字に対する興味や関心を高めるために、具体的な物や絵と漢字の字形を結び付けた指導について（1年）

	<p>【板書事項】</p>
<p>【指導の流れ】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 「今日の漢字は、『大きい』です。」</li> <li>2 「漢字は、形からできているのですよ。『大』は、何からできたのでしょうかね。『大』は、人が手と足を広げて、立っている形からできたのですよ。」</li> <li>3 「みんなでやってみましょうか。」</li> <li>4 「立って、手と足を広げて、体で『大』の字を作る。」</li> <li>5 「では、書いてみますよ。『横・左はらい・右はらい』」</li> <li>6 「みんなで書いてみましょう。」</li> <li>7 「一緒に楽しくリズムカルに唱えながら、大きく空書きする。」</li> <li>8 「机の上に、指書きしましょう。筆順に気を付けて書きましますよ。『横・左はらい・右はらい』」</li> <li>9 「鉛筆で書いてみましょう。」</li> <li>10 「*漢字スキルノートを活用し、書いて練習する。」</li> <li>11 「8 『大』が、どんな形からできた漢字が分かりましたね。おもしろいですね。」</li> </ol>	<p>【留意点】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 一年生の漢字は、具体的な形からできているものが多いので、毎回、同じ流れで指導することで、漢字の成り立ちをより意識させて指導できる。</li> <li>2 説明をしながら、成り立ちの絵を板書する。</li> <li>3 人の体の動きからできている漢字は、実際に体で表現することで印象付ける。</li> <li>4 唱えながら、まず目黒板にゆっくり書いていく。「横・左はらい・右はらい」という書き方を表す言葉の約束は、ずっと使えるので、学級として統一しておく。（特に、「はね」「や」「まがり」など）</li> <li>5 空書きでは、教師が腕全体、体全体を使い、大きく書くことで、児童に筆順と字形を意識付ける。この時、教師が児童と向き合って、児童と目を合わせながら行い、児童の手の動きを引っ張るような意識をもって行くと、学級全体の「しっかり書こう」とする気持ちが高まる。</li> <li>6 市販の漢字スキルノートは、なぞり書きと一人書きの両方のますのあるものを選ぶと指導しやすい。</li> <li>7 教師が、『具体的な事物（実物や絵）と漢字の字形が結び付いていること』をおもしろいと感じていることを児童に伝えていく。</li> </ol>
<p>参考文献 「下村式 唱えておぼえる漢字の本 1年生」 (偕成社)</p>	